

# 匿名メール PRO

<取り扱い説明書> for v1.01

## [履歴]

2001/09/27 v1.01 '既にこのIDは使われています'エラーが出た場合に先に進めなくなるバグの修正

## 1 設置構成と諸設定

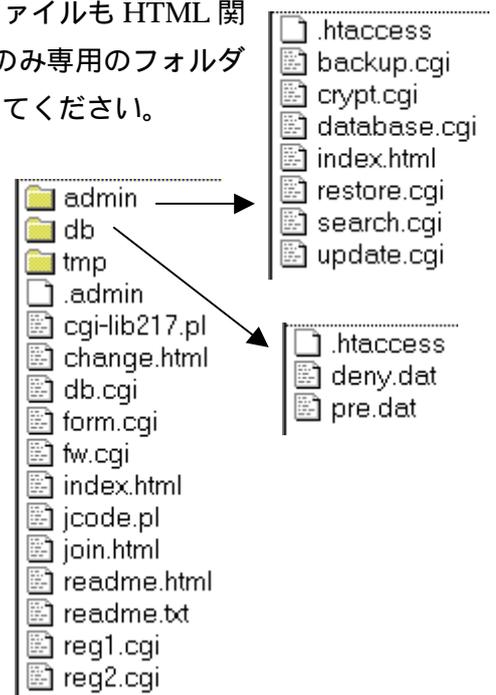
右表のように配置してください。これは、CGI プログラムもデータファイルも HTML 関係ファイルも同じ場所に設置できる場合の例です。CGI プログラムのみ専用のフォルダに設置して呼び出す必要がある場合は、その構成に合わせて設定をしてください。

拡張子.cgi は通常 CGI プログラムですので、WWW への実行権(755 相当値)を与えてください。/db/と/tmp/には、WWW への書出権限(777 相当値)を与えてください。/tmp/フォルダの中身は空または、/db/.htaccess(このフォルダへの WWW からの閲覧ができないようにする設定です)と同じファイルを置いてください。/tmp/の中には、画像転送の際の一時ファイルが記録されます。いつまでも残っているファイルがあれば任意に削除してください。

/admin/.htaccess はアクセス制限設定です。それ用のパスワードファイルは.admin です。/admin/crypt.cgi を実行すれば、パスワードファイルに設定するパスワードの生成が可能です。

/db/deny.dat は、匿名メール登録を拒否する E メールを設定します。ドメイン名などの一部でも構いません。登録 E メールに一部でも一致(大文字小文字の区別をしない)するものが拒否されます。/db/pre.dat には、登録手順 1 を完了した時点での仮登録データが記録されます。このファイルは設置最初は空にし、書込権限(666 相当値)を与えておきます。resq@rescue.ne.jp,TQ5yZH,11/1(月)22:34 という形式で、申請 E メール、登録鍵、発行時刻という形式です。手順 2 を実行し、正式登録すれば、自動的にこのファイルから削除されますので、このファイルにいつまでも残っているデータは、手順 1 をしただけで手順 2 を行っていないデータとなります。ある程度経過したデータは任意に削除して構いません。なお、他人の E メールでのいたずら登録等で、登録鍵を受け取れずに手順 2 を行えない場合も同様です。その場合、このファイルにずっと残しておけば、同じ E メールで手順 1 もできなくなりますので、再犯防止にもなります。

readme.txt はセットに含まれていない場合があります。その場合はこのファイル(取り扱い説明書)が添付されています。



## 2 運用

各ファイルに初期設定があれば設定してください。代行設置サービスを受けた場合は既に適切な設定がされています。運用前にはすべてのファイルを同じ構成でバックアップ(すべてアスキーモードで転送)してください。ただし、/db/内に生成されるデータベースファイル(DBM)はバイナリファイルですので、バックアップの必要はありません。データのバックアップについては後述します。

送信時には、データベースに記録されたパスワードと照合が行われ、受信先の存在も確認されます。相手には送信者のIDのみ公開されます。この処理が行われた際には、送受双方の最終利用日が書き換わります。最終利用日が、設定された時間を経過したデータの場合は、メンテナンスを実行することにより削除することができます。メンテナンスメニューは、/admin/index.html です。確認なしで実行されますので、メンテナンス実行する前に、バックアップをしておけば、万が一の場合にメンテナンス前の状態に戻すことができます。データのバックアップについては後述します。

電子メールは本文は7ビットJIS、添付ファイルはUUENCODE形式で送信されます。MIMEタイプがサーバ、ブラウザ双方に設定されていない特別な拡張子や内容のファイルの送受信は上手くできない場合があります。また、大きなファイル(添付ファイルそのものの大きさではなく、送信されるすべての情報の合計が131,072バイトを超えるデータ)は送信エラーとなります。画像などの大きなファイルは、圧縮して送信するのがマナーです。送信中のファイルは、すべて送信し終わってからリプライが返ってきます。

当システムは、sendmailを利用してデータを送信するまでのことしか行っていません。従って、送信したメールが相手に確実に届くことを保障するものではありません。

ブラウザ、メールソフト共に、マルチパートに対応していなければ、添付ファイルの送受信をすることはできません。

### 3 データのバックアップとリストア

バックアップは、/db/内に生成されるデータベース(DBM)をテキストファイルに変換します。同フォルダ内に作成されたバックアップファイルは、database.bak という名称で存在していますので、パソコン上に取り出して保存しておくことができます。日付をファイル名にして保存しておくといいでしょう。また、データのサーバ移動時にも利用できます。バックアップが目的のファイルですから、取り出した際には編集せずにそのまま保存しておきます。この場合の転送モードは、送受信共に同じモードを使わなければいけません。編集を一切しないことを条件に、バイナリモードで取りだしたら、万が一リストア(データ復元)のためにサーバへ転送する場合もバイナリモードで行います。リストアする場合は、現在のデータベースファイル(DBM)を手動でファイル名変更(たとえば database なら database.BAK というように)してからリストア実行します。リストアは、database.bak に記録されたデータを DBM 化するものですので、復元するデータを database.bak として設置してください。

## 4 メンテナンス

/admin/index.html の画面で、手順 1 ~ 2 を介せず、管理者が直接 E メールを登録することができます。「編集」にて、新規登録したい ID と共に、「新規登録」をチェックしてください。チェックしない場合は、既に登録されている ID の内容編集となります。ID の変更は、新規に ID を登録し、変更前の ID を削除することになります。削除は内容編集画面で「削除」ボタンを押します。

「検索」では、データベース内の検索を行います。すべての一覧を表示するには、文字列欄に . (ピリオド) を入力し、「E メール」をチェックすると可能です。E メールは必ず登録されていますし、必ずピリオドが存在するからです。「備考」欄には任意の情報をメモ代わりに記録しておくことができます。この内容は利用者にはわかりません。

登録データの編集/検索

**編集**

ID

新規登録

編集 リセット

**検索**

文字列

検索対象  ID  Eメール  備考欄

検索 リセット

[\[アップデート実行\]](#) ※ 無利用が設定秒を超えている登録の削除  
[\[バックアップ実行\]](#) ※ 既にバックアップが存在すれば上書きされます。  
[\[リストアップ実行\]](#) ※ リストア時にはデータベースを回復(削除またはリネーム)してから実行してください。  
[\[この画面へのアクセスパスワードの設定\]](#) ※ 生成されたパスワードセットをadminに記録してください。

[\[Eメールメニューへ\]](#)

ドキュメント完了。

## 5 クレジット

- ・当システムはフリーソフトです。
- ・当システムを使ったサービスを有料で提供することを禁止します。
- ・当システムの著作権は CGI-RESCUE に帰属します。プログラム内の著作権表示の改ざん・削除は違法行為です。
- ・当システムは予告なく、仕様改善される場合があります。
- ・当システムを利用して生じた被害やトラブルについて、当方は一切の責任を負いかねます。